

団体名：国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所			
応募部門 (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input type="checkbox"/> 企画部門

土木広報活動または作品名：OHKOUZU day～大河津分水の日～

1. 広報活動または作品の概要

【受賞歴】

令和4年度全建賞受賞

(大河津分水通水100周年・関屋分水通水50周年記念 未来につながる事業)

1-1. 事業実施の背景

大河津分水は令和4年8月25日に通水から100周年を迎えた。明治40年の着工までに100名超の先人達が私財を投じて請願運動を繰り返し、それに応えるように近代土木技術の英知を結集し通水が実現して以来、越後平野を水害から守り新潟の発展を支え続けている。この大河津分水の歴史を踏まえて、大河津分水に感謝し、多くの人びとが集い100年前の通水の喜びを分かち合いながらこれからの100年を考える機会を創出することをねらって「OHKOUZU day～大河津分水の日～」を開催した。

1-2. 通水100周年カウントダウンとメッセージプロジェクト

大河津分水通水100周年への関心を高め、また、自発的な大河津分水啓発の取り組みを促すために、100日前となる令和4年5月17日から「100周年カウントダウン」をスタート。地域住民、団体有志、地元企業、大河津分水路改修事業の施工会社、自治体職員、市町村長、信濃川河川事務所職員など大河津分水に縁のある方々に「通水まであと〇〇日」というカウントダウンボードを持ってもらい写真を撮影。SNSやHP等で公開した。合わせて「大河津分水ありがとう！」等と記載されたボードを持って撮影に応じていただく「メッセージプロジェクト」も実施した。



テレビ局アナウンサーも登場



地元商工会の皆さん

1-3. 令和4年8月25日 OHKOUZU day ～大河津分水の日～

イベントの概要とねらいは次の通りである。

- ① 可動堰ゲート開放式：多くの人びとの参集と通水への感謝を想起
- ② ICT 重機で100文字：「令和の大改修」として実施中の事業への関心拡大
- ③ 地元中学生の大河津分水学習成果発表とプラスバンド演奏：大河津分水の未来を考える機会を創出
- ④ 地元小学生による祝100周年手作りランタン紹介と堰のライトアップ：若い世代への大河津分水啓発
- ⑤ 関係9市町村長らによる大河津分水への感謝のメッセージ記入：大河津分水啓発地域の拡大

当日は、関係者を含めて約500名が参加するイベントとなった。



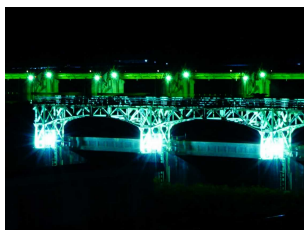
可動堰ゲート開放式
通水に歓声が湧きおこる



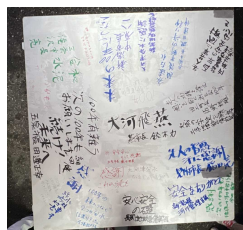
ICT 建機で100文字
9自治体の市町村旗を掲出



中学生の演奏



堰のライトアップ



参集した自治体首長とメッセージ



2. 広報活動または作品の効果：

2-1. 総括

通水 100 周年のロゴマークを約 2 年半前の段階で決定するとともに、早期の段階で関係自治体と調整し地域住民への周知を実施することにより、大河津分水通水 100 周年を祝うイベントや取り組みが官民間わが広がっていった。また、通水 100 周年の日に通水セレモニーを計画したことで目指す期日や場所が明確になり、多様な形ながらも一体感のある取り組みとなっていった。各種メディアも「8 月 25 日に向かって」というフレーズを使いやすくなり、また、8 月 25 日当日にもメディアが取り上げやすい状況を創出できた。

▼官民の自発的な取組事例

2-2. 官民の自発的な取り組みの例

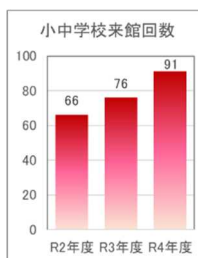
- 地域団体が大河津分水に感謝する食のイベント「NIIGATA プレミアムダイニング in 燕～大河津分水通水 100 年の歴史をめぐるガストロノミーツアー～」を開催
- 周辺自治体や市民団体等が 100 周年ロゴマークを自発的に発信－洋食器へのマークの記載、オリジナルのぼり旗の作成・設置、地元スタジアムでの大型フラッグのお披露目、小学校社会科資料集への特集ページの追加
 - 大学のゼミ活動との連携
 - 土木学会と連携した SNS の発信
 - 大河津分水実現の偉人マンガの制作



2-3. 大河津分水を通じた地域の未来を考える機会の創出

通水 100 周年事業の実施過程において多様な人びとの連携が誕生し、令和 5 年度も OHKOUZUday を開催。「令和の大改修」として実施中の事業への理解促進をテーマに施工業者等と連携し現場のライブ中継などを盛り込んだバーチャル見学会を行った。加えて、小学校において大河津分水学習が拡充し、信濃川大河津資料館を見学する学校は 100 周年事業以前と比べて 1.4 倍となっている。子ども達からは大河津分水への感謝を綴った手紙が届き、中には大河津分水の未来像を提案する新聞などもある。大河津分水通水 100 周年事業を契機に、大河津分水は「地域の未来を考える機会を提供する存在」として大きな役割を担おうとしている。

▼子ども達から届いた手紙



▼バーチャル見学会の様子

